

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム谷山中央
(ユニット名)	桜島
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市谷山中央2丁目609-1
記入者名 (管理者)	小川 みち子
記入日	平成20年 3月 8日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念			
	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でその人らしく暮らせるようにとの思いをこめてスタッフで作上げた理念です。がいきよく		地域行事への参加、地域を交えたホームでの交流に取り組んでいきたい。
	理念の共有と日々の取り組み	毎朝ミーティング後理念の唱和を行ない、理念の共有に努め日々の活動の中に取り組むよう努力している。時折利用者と一緒に理念の唱和を行なっていただいています。		
3	家族や地域への理念の浸透			
	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会や行事毎に取り組みについて説明しているが、地域への理念の働きかけが不充分である。		地域の行事や会合に参加。ホーム便りに理念を掲載、町内会への配布回覧に努めていく。
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい			
	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が野菜や手打ちそば等を利用者に食べて頂きたいと持って来られたりし、気軽に立ち寄って頂ける様声かけを行なうなど交流が図られている。外気浴、散歩時行きかう近隣の方々に気軽に声を掛けて頂いています。		
5	地域とのつきあい			
	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運動会、十五夜の行事に参加させて頂き地域の方々から暖かく受け入れてもらっている。自治会にも加入させて頂いている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	敬老会等の行事に地域の高齢者の方に声かけをおこなっている。事業所の敷地が地域の方の買い物の近道になっており、地域の方よりの要望で24時間門扉の開放をおこなっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事で出来ている事、これから先取り組まなければならない事が見えてきて改善策に向けての取り組みが出来ている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の取り組み方が今1つ問題がある。一方的にホーム側からの報告になってしまっている。町内会長よりグループホームへの希望者がいたら優先して欲しいとの意見をいただいているが、その後申し込み等はない。		町内会長の意見を大切に今後申し込みがある時は優先的に対応したい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム側からの積極的な関わりは持っていません。		市町村及び市町村担当者とういった関わりを持たせたいのか具体的に不明瞭である。今後運営推進委員会への参加のお願い等を通して関わられるように努めたい
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	2階に成年後見人制度を利用された方がいたのでミーティングを利用して話合をしました。		今後必要な場面に立ち会ったら関係者と話し合いたいおうしていきます。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への言葉や対応が本当に正しかったのか、他に方法はないか常に自分や他のスタッフの対応について、反省や意見の交換を行なって防止に努めている。		管理者は職員のストレスが虐待の引き金になる事を念頭に置き利用者はもちろんスタッフへの気配りにもつとめる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前契約を結んでからも利用者家族の不安、疑問について理解できる言葉で説明し理解、納得を頂いています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常に声かけし、その人らしさを尊重し利用者の意見を聞く事で、安心できるように心がけている。</p>	<p>利用者・家族の何気ない言葉の中不満苦情があることを認識して不満を不満として受け取らず運営に反映していく。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時、家族会又、定期的に発行するほほえみ新聞にて報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置しており家族が気軽に相談出来るよう面会時に声かけ行ない、気になっている事はないか等聞いたり、現状を説明するように心がけている。</p>	<p>意見、不満、苦情が寄せられたら管理者、スタッフは早期に解決できるように検討会を開き運営に反映させるように努める。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>入居者の受け入れ、継続については意見交換を行ない、職員採用運営方法についても相談しているが不十分な部分もある。</p>	<p>職員の意見、提案にたいして管理者は運営者と話し合い運営に反映させるようにつとめる</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急時対応について緊急連絡網を用いて定期的、不定期にシミュレーションを行うことで緊急時の柔軟な対応が出来るようにしている。旅行、外出の要望にも勤務の調整を行ない支援している。。</p>	<p>緊急時近くに住むスタッフへの負担が大きい。ゆとりのある対応が出来る様運営者と協議し人材の確保に努める。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>働きやすい雰囲気、環境作りを職員一丸となって取り組み離職を最小限に抑えるよう努力している。又利用者へは心の負担を軽減するよう声かけ等を統一し配慮している。</p>	<p>常日頃から各ユニットの交流をおこなって利用者のダメージを防ぐようにしています。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が研修等に参加しやすい環境作りに努めており、現場にて指導できる人材を確保している。		スタッフ同士の情報交換、意見交換を活発に行なっていく。新年度に向け研修会柄の参加の機会を増やしていく事が決まりました。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	谷山地域の同業者との交流を積極的に行うよう努めているが、充分ではない。		今後は田機関の同業者、職員相互の交流・意見交換行ないサービスの質の向上に努めていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	定期的ではないが、親睦会を設け悩みを聞く機会を作り、ストレス軽減に努めている。		職員が安心して働けるよう環境作りを行なっていく。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の希望休日を可能な限り確保し、職員の労働意欲が低下しないよう勤めている。		統一した処遇の中でスタッフ一人ひとりの個性を伸ばし向上心を持って働ける環境作りをしている。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期段階として利用者、家族との人関係を築くことで安心して相談出来る様な環境・雰囲気作りをしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族との人間関係を築くことで気軽に相談出来る環境・雰囲気作りをしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたとき必要としている支援を見極め他のサービスを含めてたいおうしている。		他グループホームの紹介。他サービスを利用する方法について説明しています。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症の中で本人の納得を得られないままにサービスを開始する事もあるが、家族と相談しながら本人が本人である為の援助を心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に暮らす日々の生活の中で、喜怒哀楽を共有し、共に支え合える関係の日々を築いている。		人生の先輩として学んだり知恵を頂いたりして共支えあい暮らす喜びを共有できる人間関係を築けるようにしている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	受診の協力を頂いたり、外出・外泊時には協力を貰っている。ホーム側からも面会時等を利用し積極的に情報提供をし本人を支えていく関係作りをしている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族とのコミュニケーションを大切にし、本人との関係を理解し日々の支援に取り入れたり、積極的に家族にも協力を求めよりよい関係作りが出来る様努めている。		家族との外出に同行させて頂いたりしています。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家に帰りたいとの希望ある時は、ドライブを兼ね自宅に出かけ家族とわずかであるも共に時間を共有していただいたり、地域コミュニティに積極的に参加し、精神的・肉体的に孤立拘束させぬよう努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のより良い人間関係が保たれるよう一人ひとりの人間関係を把握し必要のある時はスタッフが間に入り対応している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後もご家族との関係を持ちながら必要なときは相談。援助のできる付き合いを大切にしている		退所後も相談できる人間関係を築ききがるに立ち寄っていただいています。自宅で出来た野菜を届けてくださるご家族もいらっしゃいます。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いを大切に本人の希望や意向を把握し、生活の中に取り入れられるよう努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活歴生活習慣を家族や日常会話の中から拾い上げその人がその人らしい生活ができるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	出来る事出来ない事、したい事たくない事、したいが出来ない事。一人ひとりの過ごし方、心身状況を総合的に把握するようにスタッフ間で情報を共有し話し合っている。		したいが出来ない事についてはどうしたら出来るのか本人、家族、スタッフで話し合い検討し少しでも近づく努力をしている。また代替になる事はないか話し合いをしている。
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人が何をしたいのか、何を望んでいるのか、家族の思いは何かを話し合い、自分らしく元気に過ごしていただけるように介護計画を作成し取り組んでいる。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	退院後の計画や状況変化に合わせるように努力はしているが後手に回ってしまう事がある。		そのとき必要な支援に対して本人家族と話し合い対応していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夜勤者への申し送りの際気づきや工夫を申し送る事で情報を共有し日々の介護に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	静かな住宅街の中にあり公園やスーパー、レストラン等が近くにある立地を活かし散歩、買い物外食等を暮らしの中に取り入れその時々々に合わせた柔軟な対応をしている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源(民謡教室)やボランチア、警察消防等と協力を貰いながら支援している。中学生の職場体験受け入れをしています。		民生委員、文化、教育機関との協力体制の働きかけを行なっていく。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向、必要に応じて他機関のケアマネージャと相談したりし、本人がよりよく暮らせるようにどりよくしている。		訪問マッサージ、外出ボランチアの活用
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところ活用がない、		運営推進会議への参加をお願いすると共に必要に応じ関係を深めていく。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向を大切におこなっているが、認知の状況によっては入院できない事もある		認知症の入院を受けてくださる医療機関の確保をしています。夜間、休日の急変時かかりつけ医との連絡が取れないときの対応についてもた医療機関の受診が出来る様家族とも話し合い医療機関の確保をしています。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じ受診、相談している。状況変化に合わせいち早く対応できるように支援しています。		主治医の他に認知症に詳しい医療機関、医師に相談できる体制を作っています。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師の資格を有し又2階のスタッフに准看護師がいるので相談しながら健康管理の支援をしている		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	早期退院に向け医療関係者家族との連携を取りつつ本人が退院した時戸惑う事のないように面会を心がけている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアの必要性をスタッフも理解し家族会での話し合いをしている。また個別に話し合いを行なっている。		かかりつけ医とも往診の話し合いをしているが今のところ良い返事がもらえていない。今後も話し合い、グループホームで本人家族の望む週末を迎えられるようにとりくんでいく。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	高齢認知症の利用者の終末期においては家族を含めたチームでのしえんがたいせつであり家族の協力も必要であることを家族会を通じて話している。		重度化、終末期に自分らしく暮らせるように情報の共有を図り支援できるように今後の変化に対し検討準備を続けていく
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入院や退去になる場合も家族主治医と話し合い本人家族の為にどうしたらよいか情報交換を行なっている。		関係者との連携を密に行ないダメージを防いでいけるように努めていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーについては全スタッフが日々の中で研鑽、注意しながら支援しています。記録物等については十分に注意している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	本人の能力、理解力を考慮し本人の理解できる表現を使って働きかけを行ない、自己決定できるように努めています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペース、そのときの状況に合わせて支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	一人ひとり個別性のあるおしゃれが出来るように支援。馴染みの美容室にいたり、定期的に訪問美容の活用を行っている	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の楽しみをスタッフも共有し利用者と一緒に献立を考えたり買い物や調理に参加していただいている。	利用者と同じものを一緒に食べ楽しめる食卓作りをしています。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	特別な状況 (医師の指示。)のない限り制限はしていない。糖尿病があってもおやつとうの工夫をし楽しめるようにしえんしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>トイレで排泄できる事を基本にし一人ひとりの排泄パターンを把握し援助している。</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>受診。外出行事の為曜日指定をしている。その中で一人ひとりが気持ちよく入浴できるようにしています。スタッフも一緒に入る事もあり裸の付き合いをしています。</p>		<p>利用者の希望にあわせ温泉に出かける機会を作って支援していく。散歩を利用して近くの足湯等の利用もしていく。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活習慣に合わせた支援をしている。21時に声かけをしているが状況に合わせて休んでいただいている。空調の調節等も安眠の大切な要件として対応しています。</p>		<p>日中の暮らしも安眠の要素と捉え散歩、外気浴等をしています。</p>
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>朝の掃除。配膳片付け食器洗い。洗濯物たたみ。買い物の手伝いをしていただいたりしています。利用者の気晴らしのため少し遠いお店に買い物にいたり工夫をしています。</p>		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>財布を持つ事の大切さ、意義をスタッフが共有し能力にあわせて、また希望にあわせて支援しています。常に管理できない人でも買い物レジでの支払いの支援をしています。</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>全スタッフが施設内に閉じ込める事に対してハッキリと NOと返事し一人ひとりその日の状況に合わせて散歩、買い物。外出の出来る支援に努めている。</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>年間行事の他一人ひとりの希望にあわせ外食、買い物に出かけたりご家族と出かけられる機会作りをしています。</p>		<p>温泉1泊旅行のお手伝いをしましたこれからも機会を作るように働きかけていく</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	以前公衆電話の設置をおこなっていたが現在は電話の子機を利用していただいています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人の訪問時ゆっくりと過ぎて頂けるように湯茶の用意をし居室でプライバシーを考慮して対応している。又近況や生活について報告をしスタッフとのコミュニケーションも大切にしています。		
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者一人ひとりのリスクを共有し身体拘束のないケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関、裏口から自由に出入りできるように日中鍵をかけない取り組みをしている。居室の窓も日中かぎを開放自由に開閉できるようにしています。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーを大切過していただきながら常に所在、様子を確認しています。特に歩行障害、見当識障害のある方に対しては特に気配りをしています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ハサミ、カミソリ等その人の能力に合わせた対応をしています。食物等衛生面も考慮しています。		食物等今後も引き続き支援していく。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息のリスクは一人ひとり違う事を共有し、新たにリスクが発生した場合朝夕の申し送りを利用して情報の共有、対応策の話し合いをしている。		お餅や団子等誤嚥窒息のリスクの高い食べ物でも食べさせないのではなく対応の出来るNS のいる日に献立に取り入れる等の工夫をしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急の手当てについては救急蘇生法を学んでいる。管理者(NS)より説明を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防訓練をすえると共に不定期に予告もなく訓練を取り入れています。		地震、水害を想定した避難訓練の取り組みをしていく。災害を想定し近隣の方も避難訓練に参加して頂けるように取り組んでいく
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人ひとりのリスクを共有することでその人らしく自由に過ごしていただけるように家族と話し合い支援しています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェック、表情行動等から体調変化を早期に気づけるように勤めています。スタッフ間で入居者の変化にたいして活発に意見交換ができ速やかな対応が来ている。状況に応じ管理者(NS)へ連絡指示を仰いでいる。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の変更、追加処方については重要事項として申し送りをして症状観察、副作用がないか観察している。薬に関しては主治医よりの説明をしていただいている。不明な事がある時はNS(管理者)に確認しています。薬の説明書も重要な参考です。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便と食事の関係についてスタッフ間で活発な討議をおこない必要以上に薬に頼らないよう努めています。食物繊維、水分にも配慮しています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力と共に人格を尊重して個別対応している。自立した方にも時々さりげなく声かけし人格を尊重しながら確認させていただいています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のいない中で栄養バランスを考慮して献立に反映している。特に糖尿病のある方に対しては主治医と相談しながら支援しています。食事量のチェックをすることで情報の共有に努め次の食事に反映できるようにしています。		10時3時のお茶タイムの他夜間帯のお茶タイムを実施し夜間の水分不足を補っています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	持ち込まない増やさないを基本にして入る。特に食中毒に対しては食品、台所用品の衛生細心の注意をはらっている。ノロウイルス、インフルエンザ疥癬等については勉強会を開いたりしています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理には特に注意を払い台所調理用具の次亜塩素酸（ハイター）消毒を行なっている。安全な食材の確保賞味期限についても冷蔵庫の扉に明記したり食品庫の中も賞味期限が一目でわかるように明記しています。		非常食についても賞味期限の分かるようにし入れ替えのとき利用者にも説明し一緒に意義を理解してもらい食べています。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横にベンチを置き買い物の途中休憩できるように工夫しています。外気浴等を利用して近隣の通りがかりの方とのコミュニケーションを大切にしています。		近隣の方にとってはグループホームはまだ特別な存在として受け取られている面があります。気軽に立ち寄れるよう働きかけをしていく。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所からの美味しそうなにおい、窓からの光、風で生活している実感を味わっていただけるようにしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂横の空間を利用してソファを配置し気のあった利用者同志中に過せる場所を設けてあります。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、神棚を置かれ居心地のいい居室作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の換気、天気の良い日は窓を全開とし臭いや空気のだよみのない様に配慮している。温度調整は一人ひとりに合わせて行なっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	気ままに歩かれる人が、どこにでも腰を下ろして休めるよう、他利用者に邪魔にならない様廊下に椅子を配置している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの能力を共有し、その人に合った環境作りを行なうように努力している。		タンスやベッドの位置、方向もその人に合わせた配置をしている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外にベンチや手作りの木椅子を置き、外気浴や外でのレクレーションを楽しんでもらえるようにしている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホームと言う閉ざされた環境の中で支援するのではなく、この人が元気だったらどうしていただろうかと考え、出来るだけ外に目を向けて外出の機会を作るようにし

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## 記入方法

### [取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

### [取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

### [取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

### [特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム谷山中央
(ユニット名)	霧島
所在地 (県・市町村名)	鹿児島市谷山中央2丁目609-1
記入者名 (管理者)	小川 みち子
記入日	平成20年 3月 8日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑  取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	全職員で理念を作成し、理念を理解し、その人らしく個々に合わせたケアサービスをしている。	地域との交流をもっと密に行い、色々な行事に参加する機会を増やしていく。
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	毎朝理念を唱和し、理念を共有しケアに反映させるように取り組んでいます。	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	ご家族には重要事項説明書・契約書に明示し、同意を得ているが、地域には広報するまでには至っていない。	ホーム便り等に理念を明記し、配布・回覧などで広報していきたい。
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	玄関周りに家庭菜園や鉢植え・ベンチを設置し、通りがかりの地域の方々が気軽に声をかけられる様、開放的な空間作りをしている。住宅地の中にある利点を生かして散歩や地域に出かけるように取り組んでいます。	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域で行われる運動会や十五夜等の行事に利用者・スタッフも参加させて頂き、交流を図っている。	より多くの行事に参加出来る様努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	カラオケ大会や敬老会の行事の際、地域の高齢者に声をかけている事業所の敷地が近隣の方の買い物の近道、通学の通り道として利用されており地域の方より裏門扉の開放の要望があり運営者と協議24時間開放している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価をする事により、足りない部分を再確認し、日頃から念頭に置き実行している。		定期的にミーティングを行い、ケアの向上に努めている。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の取り組みに問題がある。ほとんどホームからの報告要望に限定されている。その中で町内会長さんより入所希望者がいたら優先させて欲しいとの要望がある		地域の方を優先して対応していく
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム側からの積極的な関わりは持っていない。		市町村及び市町村担当者とこういった関わりを持てば良いか具体的に不明瞭である。しかし、市町村及び市町村担当者と積極的に関われる様、連絡・連携を取って行くようにする。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成人後見人制度を利用されたが居られた事で学ぶ機会があり職員も理解しています。		必要な利用者がいたら関係者と話し合い支援できる体制作りをしていく。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	職場研修に参加する機会を持ち、一人ひとりが虐待防止への取り組みを行っている。		特に管理者・ケアマネは職員一人ひとりの状態や能力を分析し、ストレスや疲労を溜めないように努めている。又、一人で問題を抱え込まないよう意見を出し合える雰囲気や機会を作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ前、契約後も利用者、家族等の不安、疑問について理解できる言葉で説明し納得をいただいています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>各担当で不満・苦情を言いやすい雰囲気を作り、積極的に声をかけており、公共機関の利用もしている。</p>	<p>外部へ表せる機会の頻度を多くしていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ご家族の面会の際、ご利用者の状況報告を行っている。容態の異変・急変時は電話連絡している。又、ホーム便りにご利用者の写真を掲載し、日頃の暮らしぶりが分かるようにご家族に毎月送付している。</p>	<p>ご家族がご利用者を病院受診に連れて行く際、最近の身体状況や精神状態等を報告した手紙を渡している。ホーム便りでスタッフの紹介を行っているが、異動や退職についての報告は特に行ってはいない。今後、検討していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ユニットごとに意見箱を設置している。又、不満・苦情・こうして欲しいと言う意見を言いやすいようスタッフサイドから積極的にご家族へ声をかけている。</p>	<p>家族会の定期的な開催を行っているが、家族会が更に機能していけるよう支援する必要がある。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>管理者はスタッフの意見や介護方針について話し合う場を設け、その意思を反映させる努力をしている。</p>	<p>スタッフの意見を管理者がまとめ、運営者に伝えて意見が反映されたことがある。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>緊急連絡網を用いて、緊急時に対応出来る様定期的にシミュレーションしている。ご利用者やご家族の希望により、勤務の調整を行い、旅行へのスタッフ同行やスタッフ付き添いの外出を実現している。</p>	<p>緊急時でも早急に人員の確保ができる様に、職員の十分な人数確保に努める。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>日頃から、ユニット同士の交流を図り、スタッフの異動の際のダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>スタッフの異動は必要に迫られない限り行っていない。スタッフの離職については相談に乗り、理由や背景を理解し、いい人材が定着出来る様、今後の改善に繋げていく努力を行っている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員が日常的に学ぶことを推進しており、職員に的確な助言が出来る人材がいる。研修を受ける機会を設けている。</p>	<p>スタッフの個別性をふまえて適切な助言や指導を行っていく            新年度に向け研修等への参加の機会を増やしていく事が決まりました。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所との月1回の交流、ミーティングで報告。谷山地区グループホーム・研修会を通して交流を図るようにしているが、十分ではない。</p>	<p>研修日が勤務表が出来てから連絡がある為調整が難しい。出来る限り調整をつけ、交代で参加できるように取り組む必要がある。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員親睦会を設け、悩みを相談する機会を作り、ストレスが解消できる場としている。</p>	<p>メンタルケア・スキルアップ等のバックアップをする。意見を出しやすく、話し合える雰囲気や機会作りをする。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>スタッフの希望休日を勤務に支障がない範囲で取り入れたり、急な勤務の変更要請に対しても可能な限り配慮をし、働きやすい、かつプライベートの両立に尽力している。</p>	<p>労働条件や職場環境の適宜見直しを行っているが、更に工夫や改善をしていく必要がある。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>日常生活や日頃思っていること好きなこと、嫌いなこと、出来ること、出来ないことなどを個別に話を聞くようにし、話をしてもらっている。</p>	<p>入居前の生活の様子、嗜好等を確認し、どこに支援が必要かを明確にして毎日の生活状態をよく観察・記録スタッフ間で共有する。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>グループホームに入居することになった経緯を家族から説明を受けている。</p>	<p>家族の面会など来所時に家族が望むホームでの生活とはどのようなものかを確認し、いつでも気軽に話して頂けるよう信頼関係を築く。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	本人や家族から出来るだけ細かい情報を収集し、優先度を考えてサービスの提供を行っている。		家族の要望を取り入れながら、本人に必要なケアが受けられる場所を紹介しています。。
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	入居前にご家族や本人の方に見学して頂いて、一緒にお茶を飲むことで雰囲気を知ってもらう。		入居前に本人を訪ねて十分な説明を行うと共に行事に参加して頂く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員の一方的な支援だけでなく、要介護者からも知恵を頂き職員も色々学び、互いに支え合う環境づくりをしている。		人生の大先輩として経験豊かな利用者に学びながら信頼関係を築いていく。
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	行事や家族会、面会時に利用者の普段の状況を伝えている。また、ご家族から相談や利用者に対するの想いを聞き、ご家族とのコミュニケーションも大切にしている。		ご家族との情報交換は信頼関係を築ききっかけになると考え、ご家族とスタッフが共に協力しあい本人を支えていけるよう目指している。
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	日々の生活の様子を家族の面会時、ホーム便り、電話等で伝えたり、介護記録を見て頂き、本人の身体・精神の状態や気持ちをご家族が汲み取れるよう支援している。		本人がご家族の事を、ご家族が本人の事をどのように想っているのか関係の理解に努め、本人とご家族、両方の立場に立って支援するよう目指している。
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	遠方の方には便りのやりとりをしている。思い出の場所へは旅行をしたり、故郷への帰省も行っており、必要の場合はスタッフも同行している。		利用者が要望を告げやすい環境を作って馴染みの人との関わりや場所の行き来を増やせるように支援する。
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	一人ひとりの性格や個性を尊重して座席の配置を考慮している。		関わりの薄い利用者同士の間にはスタッフが入り、円滑なコミュニケーションが図れるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	転院先へ訪問し、利用者さんとの関わりを持っている。ご家族より再入所希望があった場合は、利用状況に応じて前向きに対応している。		退所された方にも行事参加を呼びかけ、継続的な関わり持っています。
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの意向を聞いた上で暮らしやすい生活環境づくりに努めているが、困難と思われる希望については十分な説明を行い、代替的要望を実現出来る様努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでのサービス利用施設などに情報提供書を頂き、本人・ご家族からも情報収集し、独自の情報提供書を作成している。全ての職員が情報を共有しケアに努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りや記録を元に、現状を把握している。不在時の記録を遡り現状の把握をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から出来るだけ詳細な情報収集をし、スタッフ間で十分な観察と評価をするようにしているもう一歩踏み込みせんざいてきな課題を掘り起こしが必要。		本人・ご家族との話し合う機会が少ない為、担当者を交えて、もっと話し合いの場を提供する。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直す期間を決めているが、ADLの変化に伴い行動の変化を見極める為に新たな計画を作成している。		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	記録や申し送り、会議を通して利用者の情報交換を蜜に行っている。		スタッフ一人ひとりのケアの向上を図り、介護計画の見直しを行う。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	要望に応じて、担当スタッフで計画を立て、早期対応を個別に行っている。静かな住宅地の中にあり公園、スーパー、レストランがあり活用している。		利用者・スタッフ間のコミュニケーションの中で、もっと要望を引き出せる様な関わりを持つよう努める。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	警察・消防には事前に協力要請をしており、必要に応じて連絡、連携を図り支援している。		民生委員や文化・教育機関等との協力体制が不十分なので、これから協力して頂けるよう働きかける。
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	本人家族等の意向、必要性に応じて地域の他ケアマネジャーと相談できる体制を作っている。		
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	現在のところ活用した事はありません。		運営推進会議の参加をお願いし情報交換を行ない連携を図っていく。
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	入居時に本人やご家族の希望の医療機関を尋ねてかかりつけ病院を選択している。		事業所の都合でかかりつけ病院を選ぶことはなく、本人・ご家族の希望、又状態に合った医療機関を選んでいる。夜間、休日の急変時、主治医家族等と話し合い医療機関を確保しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>更に医師との情報交換を蜜に行い、ご家族へのフォローも出来る様努める。</p>
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		<p>入所時に本人・ご家族の意向を尋ね、早い段階から本人の希望を把握し、スタッフ全員で方針を共有する。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>よりよく暮らせる為にスタッフ一人では対応出来ない利用者のニーズにもチームで支援することで、利用者の希望に対応する。</p>
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>関係者間で十分な話し合いを設ける機会を作る。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者一人ひとりの誇り、人格を尊重しことばかけ、対応をしています。記録物には細心の注意を払っています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>希望が表現しにくい利用者の方に、選択できたり表現しやすい様な配慮をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>、可能な限り一人ひとりのその日の過ごし方を尊重している状況に応じては決まりごとを優先する事があります。</p>	<p>、出来る限り希望に添った支援を行いたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>衣服を購入するときは本人に選んでもらったり、行きつけの美容院等に行けるよう配慮している。定期的に訪問美容の活用もしている。</p>	<p>おしゃれをすることで生活意欲、楽しみの機会を増やしその人らしく暮らせる支援につとめている。</p>
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>毎日の献立作りや行事食に利用者の好みの食材を取り入れ、食事のセッティング・調理・片付けを一緒に行っている。</p>	<p>利用者と一緒に食事をすることで会話を引き出し楽しんで食事していただいています。</p>
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>本人の希望により嗜好品を一緒に買いに行ったり提供したりしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	オムツ外しを目標に、スタッフ全員が排泄パターンを把握し、事前に声かけを行っている。		本人の排泄する能力を低下させないように今後も取り組みを続けていく。
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	受診、行事の為曜日設定をしている。入浴の順番の設定はないその中でゆっくり入浴していただけるよう努力しています。		利用者の希望を尋ね、可能な限り本人の要望に沿えるように支援する。夏場のシャワー、散歩を利用し近くの足湯の活用をしていく
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	個人の余暇時間を大切に、十分な休息ができるよう支援している。		日中の暮らしも安眠の要素と捉え不安、不満を取り除くようにしているが散歩外出も取り入れ気持ちよく眠れるようにしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	月一回の外出日を利用して、外出や外食を楽しんで頂いている。一人ひとりの能力に合わせて楽しみ事や分担を決めて支援している。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	自己管理出来る金銭を持つことの大切さをスタッフは理解しているが、自己管理している人は限られており、管理できない方は状況に応じて支援している。		自分で管理できない人でもお金の意味は理解されており買い物や外食の機会を増やしレジで自分で支払いが出来る援助をしていく。
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	外出の希望があるときは付き添い、買い物や散歩を楽しめるよう支援している。		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	利用者が行きたい所を本人や家族から教えてもらい、訪問が実現出来る様支援している。		利用者の行きたい所を個別に訪問している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族・友人への電話や手紙のやりとりは、希望されることが生活を営む上でよくあることなので、迅速に支援している。		手紙の場合、出来るだけ自分で書いて頂くが、必要に応じて代筆を行ったり、文書構成の手助けを行っている。自分で手紙が書けた達成感が持てるように支援している。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族が気軽に訪問出来、訪問時は居心地よく過ごせるよう雰囲気作りをしている。		面会時間の規制は行わず、いつでも訪問して頂けるよう説明を行っている。訪問時はゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、宿泊の準備もしている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場内研修や、ミーティングを通して、身体拘束となる具体的な行為を理解し、共通の認識を持ってケアに取り組んでいる。		個々の状態の把握、身体の変化を経過的に観察し、毎日の生活状態を記録し、スタッフ間で共有することで変化に早く気付くよう取り組んでいる。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に施錠しないでいつでも自由に入出入り出来るようにしている。		鍵を使用しないケアを十分理解している。又、鍵を使用しないことで起こるリスクも理解しており、一人ひとりに目を配ることで安全を確保している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通してスタッフは利用者の生活の流れを掴むことによって、行動・所在地を把握し、干渉しすぎずに安全をサポートしている。行動パターンを把握していると過信せず常に安全に配慮するように努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	裁縫道具・爪切り等の刃物について、自己管理できる方は私物を使用して頂き、紛失の可能性が高い方にはホーム用管理の物品貸し出しを行い、使用後の数の確認・管理をスタッフがやっている。		食品の自己管理について、衛生面(食中毒・害虫)が大きな壁となっているが、季節によって自己管理とスタッフ管理を使い分けている。自己管理する物によって対策を考え、ポジティブな対応をとっていきたい。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急事態に対しては、マニュアルに基づき対応実行している。		学ばなければいけないことがあり、これからも勉強会を開くことで事故等の防止に繋げていく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は利用者の持病やアレルギーについての留意事項を共有しており、怪我等の緊急時に全スタッフが救急救命についての講習を受けている。		定期的に全スタッフが救急救命についての講習を受け、対応出来る体制作りを常に心がけている。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	1年に2回ほど消防に協力頂き、利用者・スタッフ全員消防訓練を行っている。非常口等は利用者にも分かるように常に確認している。近所の方に協力をお願いしております。		。近隣の方にも参加していただき避難訓練を実地刷る。地震水害等も視野に入れたたいさくを講じるひつようがある
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族の来所時等、介護記録等見て頂き、本人の状況の説明を行い、リスクについての対応策に取り組んでいる。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェック・表情活動の観察を行い、異常サインを早期に発見できるようにしている。		変化の発見については、数値だけで判断するのではなく、普段の状況を知ることにより、変化を素早く察知出来るようにする。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・作用と副作用、処方量を一覧にしたシートを各自のファイルに綴じており、スタッフ全員が把握出来るようにしている。誤薬、飲み忘れを防ぐ為名前、日付、朝、昼、夜等記載確認をしている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎朝1回ヨーグルトを出し、食事の中にも多くの食物繊維を取り入れできるだけ薬に頼らない支援を心がけている。、又、天気の良い日は散歩や日光浴をし、体を出来るだけ動かすようにしている。		便秘改善に努めているが、服薬による排便コントロールを行っている利用者の方もおり、更なる対策を考慮する必要がある。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりに声かけし、その都度口腔ケアチェックを行う。義歯の歯磨きの手伝いや磨き残しのないように支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別性に考慮し、その人に合わせた食事量・水分量を摂取出来るよう支援している。		水分をあまり摂取されない場合は、飲み物の工夫やゼリーにするなど対応し、水分や栄養が十分に確保出来るようにしています。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	勉強会を行い、感染症に対する知識を学んでいる。		集団感染という事態に至らない為にも持ち込まない増やさないを基本に、グループホームに相応しい衛生水準の保持と早い段階での異変の察知に努めていく。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具・台所に関して毎日定期的に消毒を行っている。梅雨の時期は生ものは控え、十分に火を通し、新鮮かつ安全な食材を提供している。		日々の衛生管理を徹底すると共に、食材の鮮度にも気を使っていきます。今後も継続して取り組んでいく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープを設け、車椅子でも入れるようにしている。又、玄関先に花等を飾ることで、入りやすい雰囲気作りを心がけている。		季節ごとに花を変える等して更に親しみやすい雰囲気を作っていきようにしたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今にソファを置き、寛げるようにしている。また壁には季節ごとの飾りつけをし、季節感を感じられるように心がけてる。		常に清潔を心がけ、居心地よく過ごして頂けるようにする。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者がゆったり集える広さを確保し、家族などの来客にも対応出来るようにソファを2箇所を設置して、好きな場所で過ごせるよう配慮している。		利用者の交友関係等を考慮し、席の工夫をしている。ソファの活用を増やし、寛で頂く機会を増やして行けるよう心がける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族がホームに宿泊し、利用者の方と一緒に過ごせるよう配慮している。慣れ親しんだ小物・家具・仏壇等を持ち込んで頂いている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝の清掃時や散歩時等利用し、定期的に換気するよう心がけている。又夜勤帯での(4～5時の間で)換気をおこなっています。		エアコンの使用時にも定期的な換気をしていくようにする。温度調整はこまめに切り替えることで外気温との差があまりないようこころがける。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の位置が右利き用と左利き用のトイレを準備し、出来るだけ自立出来る様工夫している。		一人ひとりの生活状況を観察し、不足と思われることには素早い対応をしていく。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの状況を把握し、出来ることや関心を持っていることを引き出して行けるよう工夫している。		環境の急激な変化を避け、利用者の混乱を起こさないよう配慮している。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外にベンチを置いたり、小さな菜園を作ることで、利用者が楽しめるよう工夫している。		利用者がもっと外での活動がしたくなるような空間作り(花・休憩スペース等の設置)を行い、声かけも細かに行っていく。



サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)